



野村志津江
のむらしずえ
公明党
(60分)



骨髄ドナー助成制度は

問 ドナー候補者の多くは働き盛りの年齢だが、職場の理解が得られない等の理由で骨髄提供を断念した方もいるようである。ドナーの支援が移植を待つ患者への支えになると考えるが、助成制度は。

答 ドナーの休業などによる経済的負担を軽減するため、通院や入院をした日が無給となる場合などに、ドナーに対し1日2万円、14万円を上限として助成している。



学校図書館の居場所機能は

問 現状と課題は。

答 不登校傾向にあった児童生徒が、読書や課題をしながら過ごすことで休まず登校できるようなるなど、安心して過ごせる居場所としても機能している。課題は、必要な時にいつでも利用できるようなっていない学校が少数あることである。



佐久間裕徳
さくまひろのり
公明党
(50分)



自転車の安全対策は

問 ①現在の小中学校における交通ルールに関する教育は。
②ヘルメットの購入費助成の考えは。

答 ①各学校において入学時に交通安全指導を行うほか、登下校時に注意喚起するなど、日常的に交通安全指導を行っている。また、関係部署や警察、企業と連携して自転車のルールや危険予測、危険回避等について学習する交通安全教室を開催している。
②中核市のうち助成を行っている20市への調査によると、申請は多いが着用率の向上につながっていない、助成だけでなくヘルメットを被らないと危険であることの意識の徹底が大事との意見もいただいている。また中核市に限らず、着用率の高い自治体では、助成制度だけでなく高校生への積極的な啓発活動等が行われている。本市では市内全ての高校への訪問など、ヘルメット着用の重要性についての周知、啓発に取り組む。



能宗正洋
のうそつまさひろ
誠友会
(45分)



市道の維持管理の効率化は

問 ①平成30年に導入した市民通報アプリ「パ撮ローズ」に登録している方からの主な通報の内容は。
②路面標示3か年集中対策実施計画の進捗状況および地域の声は。

答 ①通報の8割の約3千件が道路の穴ぼこ、2割の約700件がガードレール等のゆがみやカーブミラーの角度のずれ、道路への樹木のみだしなどである。
②対策を効率的に進めるため、道路の利用が多い主要な市道は、AI、人工知能を活用して344キロメートルの路面標示を更新し、それ以外の一般の市道については道路パトロールや地域の要望を基に、282キロメートルを更新することとしている。8月末時点で、進捗率は約38%である。

地域からは、ラインがよく見えるようになり運転しやすくなった、安心して歩けるようになったなどの声をいただいている。



補修された市道